

1 申請者の情報

フリガナ		イリヨウホウジンイワクニビョウイン	申請年月日	令和6年6月12日
医療機関の名称	医療法人岩国病院		住所・所在地	〒741-0062 山口県岩国市岩国三丁目2-7

2 病床削減の概要(予定含む)

<許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計※2
1	①平成30年度病床機能報告における許可病床数	0	41	0	19	0	60	60
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその許可病床数 ※1						0	0

※1 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は「1②」は記載不要(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※2 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

<稼働病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
2	①平成30年度病床機能報告における稼働病床数	0	41	0	19	0	60	60
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその稼働病床数 ※3						0	0

※3 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「2②」は記載不要(令和2年4月1日時点での変更は除く)

<病床削減後の許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
3	病床削減後の許可病床数	0	0	41	0		41	0

<他の医療機関との病床融通>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
4	他の医療機関との病床融通数 ※4					0

※4 病院統合や地域医療連携推進法人の病床融通制度等を活用し、他の病院等へ病床が移転しようとする場合に記載すること。また、「(参考)病床移転にかかる概要」に関連する病院等の病床数を記載すること。

<対象3区分から回復期又は介護医療院へ転換した病床数>

		回復期	介護医療院	合計
5	削減病床のうち、回復期又は介護医療院へ転換した病床数	0	0	0

<年間在棟患者延べ数(人)>

		高度急性期	急性期	慢性期	合計
6	①平成30年度病床機能報告における対象3区分の病棟の年間在棟患者延べ数(人) ※5	0	10,797	6,453	17,250
	②令和2年4月1日時点年間在棟患者延べ数(人) ※6・7				0

※5 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数=年間在棟患者延べ数((48)欄に記載された数値)×12÷報告可能な対象期間(月単位)

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成29年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位)=6

※6 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「6②」は記載不要(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※7 令和元年度病床機能報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は令和元年度病床機能報告の数値を計上すること。変更がある場合は、変更後令和2年4月1日までの在棟患者延べ数を※5を参考に算定して計上すること。

3 病棟別内訳(予定含む)

【変更前の状況(R2.4.1まで)】

変更前	病棟別内訳 (病床機能報告から転記)	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	稼働病床数
		①一般病棟	急性期一般入院料6	急性期	41床	41床
		②療養病棟	療養病棟入院基本料1	慢性期	19床	19床
計					60床	60床

※ 平成30年度の病床機能報告を転記することを原則とするが、平成30年度の報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数等に変更がある場合は変更後の病床数等を記載すること。



【令和6年度】

R6 年度 1	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		①地域一般病棟	地域一般1	急性期	41床	R6年8月
		②療養病棟			0床	R6年8月
計					41床	



R6 年度 2	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		①地域包括ケア病棟	地域包括ケア病棟入院基本料2	回復期	41床	R6年10月
計					41床	



【令和7年度】(変更がない場合や計画が未定の場合は、「以後変更なし」「未定」等と記載のこと)

R7 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		変更なし				
計					床	

※病棟別内訳の数が不足する場合は適宜追加すること。
 ※計画完了時には「休棟等」がすべて削除され、存在しない状態となっていること。

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

対象医療機関名 医療法人岩国病院

1 地域の状況		
地域の現状と課題	岩国医療圏について、地域医療構想の必要病床数と令和5年度病床機能報告を比較すると、急性期が60床、慢性期が158床の過剰である一方、回復期は211床の不足という状況である。人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、地域全体として回復期機能の強化が課題となっている。	
2 自施設の状況		
自施設の現状(変更前)	当院は、地域密着型の病院として主に内科と産婦人科の2科を中心に診療を行ってきた。しかし、分娩件数の減少、後継者の不足と助産師等の産科スタッフの不足が重なり、令和6年6月末をもって産科病棟を閉鎖するに至った。これをきっかけとして、内科病棟全体の再編成に取り組むこととした。	
病床数の見直し	見直しの考え方	産科病棟と慢性期病棟の閉鎖により病院全体をスリム化するとともに、医療従事者の人員配置を再考することで、動線の最適化等による業務効率の向上を図る。また、地域のニーズに沿った機能を担うことができるよう、急性期病棟を回復期病棟へと転換する。なお、外来診療については、内科と産科の機能を維持する。
	対象の病棟・病床の概要	療養病棟患者の転院と人員配置の調整のため段階的に移行を進める。まず、令和6年8月以降、一般病棟(急性期一般入院基本料6)41床を地域一般病棟(急性期入院基本料地域一般1)に変更し、あわせて療養病棟(療養病棟入院基本料1)19床を閉鎖する。その後、令和6年10月をめぐりに地域一般病棟を地域包括ケア病棟(地域包括ケア病棟入院基本料2)へと変更する。
	入院患者への対応	閉鎖を予定している療養病棟については、岩国市内の療養病床を有する病院に転院の受入れを依頼するとともに、病状に応じてご家族との転院の話し合いを順次進める。一般病棟については、地域一般病棟に変更する際の調整は不要であるが、地域包括ケア病棟への変更に向けては、計画的に入退院の調整を行う。
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由		
理由	地域全体として過剰と見込まれる急性期機能及び慢性期機能を縮小し、不足している回復期機能を強化することは、地域医療構想の実現に資するものと考ええる。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6		R7	計
		変更時期		
高度急性期				
急性期	△ 41	R6.10		△ 41
回復期	41	R6.10		41
慢性期	△ 19	R6.8		△ 19
合計	△ 19			△ 19

※急性期41床は回復期に転換予定のため、補助金の支給対象外

【参考】R5病床機能報告(岩国保健医療圏の状況)

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	介護保険施設移行予定	合計
報告	①R5(2023)現状	268	467	194	682	69		1,680
	②R7(2025)予定	266	479	235	663	9		1,652
構想	③R7(2025)必要数	131	419	446	505			1,501
④構想との差(R5)(①-③)		137	48	△ 252	177			110
⑤構想との差(R7)(②-③)		135	60	△ 211	158			142